

## ぎふハチドリ基金2020年度助成事業実施報告



ぎふハチドリ基金助成事業は、市民からの寄付金を原資に、困難を抱える子どもや若者、子育て家庭を支援する事業に対して助成をしています。

2020年度も皆様の寄付金を、岐阜県各地で活用させていただき、全17件、総額2,732,763円の助成ができました。

新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言などで、計画変更となった事業もありましたが、各団体とも感染防止に心がけて、助成事業を実施することができました。

各助成団体からの助成事業実施報告（抜粋）をご紹介します。

## ぎふハチドリ基金2020年度助成事業 助成メニューの概要

### 【A-1】事業助成 1件あたり上限30万円 総額150万円程度

様々な困難を抱える子どもや若者、子育て家庭を支援する以下のような事業に対して、必要な費用を助成する。

＜対象事業＞

- (ア) 子どもの貧困対策（貧困の連鎖を断ち切る）事業
  - 1) 学習支援事業/2) 子ども食堂事業/3) 一人親家庭の支援事業
  - 4) 子どもの居場所提供事業/5) 児童養護施設等の退所者の自立を支援する事業
  - 6) その他「子どもの貧困対策」に資する事業
- (イ) 学齢期の子どもの「不登校・いじめ問題」等の課題に取り組む事業
- (ウ) 若者の「ひきこもり」等からの脱却を支援する事業
- (エ) 障がい児者を支援する事業
- (オ) 発達障がい、多胎、ダブルケア等、課題を抱えた家庭を支援する事業
- (カ) その他、子どもや若者をめぐる課題を解決するための事業

### 【A-2】ステップアップ助成 1件あたり上限20万円 総額100万円程度

子どもや若者、子育て家庭の抱える困難を解決するための活動を新しく始めたり、今までの活動を向上または安定させるために必要な費用を助成する。

＜対象事業＞

- (ア) 法人格取得のための準備事業
- (イ) 新規事業のニーズ調査事業
- (ウ) 資金調達の仕組みづくり事業
- (エ) スタッフのスキルアップ研修事業
- (オ) その他、事業や団体の基盤強化のために必要な事業

### 【B】利用者負担軽減助成 1件あたり上限20万円 総額80万円程度

団体で行っている活動の利用者負担分を、経済的困窮家庭に対して軽減する場合、団体が負担した軽減分を補てんする。

＜対象事業＞

- (ア) ファミリー・サポート事業、学童保育事業など、子どもを預かる事業
- (イ) 困難を抱える家庭の子や若者への個別支援事業
- (ウ) その他、「ぎふハチドリ基金」の設立趣旨に沿った内容と思われる事業

### 【C】東海ろうきん未来応援基金「物品購入助成」 1件あたり上限10万円 総額20万円程度

東海労働金庫の社会貢献商品に拠っていただいた寄付金を活用する特別メニュー。

困難を抱える子どもや若者、子育て家庭の支援する事業に必要な物品で、以下の条件すべてにあてはまるものの購入について助成する。

- ① 支援活動のために継続して使用するもの
- ② 1年以上使用し、形として残るもの
- ③ 「ぎふハチドリ基金×東海ろうきん助成」と明記して使用できるもの

○助成事業募集期間：2020年4月1日～5月20日

○審査委員会：2020年6月9日

○採択証交付式：2020年6月23日

○助成対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日

## 【A-1】事業助成 全7件 助成総額1,617,519円

### NPO法人心をつなぐホースセラピーぐりん・はあと（本巢市）

【助成事業名】生きづらさを抱えた子どもたちの体験活動「ぴのきお」  
【助成額】215,930円（総事業費439,277円）  
【事業の内容】発達障がい及び障がい特性など、生きづらさを抱えた子どもを対象に、月1回の自然体験活動を行い、「できたこと」を増やし、自己肯定感を高めた。  
開催場所は、根尾川、さくらキンダーガーデン、岐阜県森林文化アカデミー&モリノス、金華山および山麓周辺、畑など。計8回開催（コロナ禍での緊急事態宣言のため、4月・5月・1月・2月は活動を中止）。  
【事業の成果】  
・今年度、生きづらさを抱えた子どもたちは、コロナ禍で行動が制限されることで、一層のストレスを抱えるようになった。活動を選択できるようにしたことで、子どもたちは、前向きに、いきいきと活動に取り組み、自由な空間で、ゆっくり流れる時間を楽しんだ。  
・個々の子どもの特性や生活実態を踏まえ、適切な関わりをすることに心がけたことにより、子どもたちは、自然で広い活動空間を味わって、主体的・創造的に活動することができた。  
・生きづらさを抱えた子どもたちが、仲間と協働して体験活動に取り組み、社会的スキルの基礎を磨くことができた。「できたこと」を増やすことによって、自己肯定感を高めることにつながった。



### 地域たすけあいの会（美濃加茂市）

【助成事業名】こども・若者の自立を目指す料理教室  
【助成額】300,000円（総事業費 478,696円）  
【事業の内容】可児市において、支援を必要とする子ども・若者を対象に、毎週土曜日料理教室を開催した。\*参加者は1回あたり平均7人、のべ人数は368人、実人数では30人。  
【事業の成果】  
1年を通じて全52回、料理教室を実施、参加者が自分で料理を作れるようになるまで支援できた。子どもたちから、「習った料理を家で作ってみて、家族からおいしいと言ってもらえた!」「だんだん料理が楽しくなってきた!」という言葉ももらった。保護者からは、「こどもが家で自ら夕食の準備を手伝ってくれるようになった。」「どんどん新しいことを覚えて料理ができるようになっていくので、頼もしく感じた。」という言葉もいただいた。  
参加者には、野菜などの食材と、料理教室で作った料理のオリジナルレシピを配布した。コロナ禍で子どもたちはさまざまな不自由を強いられてきた1年だったが、料理教室では子どもたち同士の交流の場にもなり、充実した時間を過ごしていた。料理の調理方法だけでなく、道具の使い方、野菜の特性、調理の仕方、衛生管理方法、安全管理方法など網羅的に取り扱ったので、料理を作るだけでなく、自立に向けていろいろなことに対応できるように取り組むことができた。



### NPO法人子ラボハウス キキの家（郡上市）

【助成事業名】グレイゾーンの小学生支援（サタディ）と未就園児親子支援（リトルキキ）とサタディOBの集い（サンディ）事業  
【助成額】300,000円（総事業費405,200円）  
【事業の内容】グレイゾーンの子子ども達を対象にした毎週木曜日の放課後と土曜日の居場所とOBの若者の集まりを開催した。  
◆サタディ：グレイゾーンの小学生対象、登録人数10名、11回開催 延べ66人参加  
◆リトルキキ：子育てに困難を感じている親子対象、登録18組、32回、延べ150組参加  
◆サンディ：サタディOBの集い、3回開催。延べ10名参加  
【事業の成果】  
◆サタディ：少人数であることを生かし、家庭や学校では、なかなかできないこと（火をおこす、包丁を使う、針を使った裁縫など）をスタッフの手助けを受けながら自分のペースで経験を積み重ねることができた。  
◆リトルキキ：固定したスタッフ（ボランティア含）がいることで、継続して参加される方が多かった。親から離れなかった子が徐々にスタッフと遊ぶようになり、親は、子から離れて他の母親やスタッフと子育ての話や相談ができ、元気になって子育てに向かう姿がたくさん見られた。  
◆サンディ：今年度、初めて高校生、専門学校生などを対象とした。コロナ禍の中、少人数で、なるべく戸外で行うなど工夫をした。久しぶりに会う成長した彼らの姿は、今苦勞している親子に励みになり、スタッフの今後の活動への意欲にもつながった。





## 子育て支援いちご（養老町）

【助成事業名】ようろうこども食堂

【助成額】109,722円（総事業費109,722円）

【事業の内容】子ども食堂を2回開催（計画では3回だったが、コロナ禍で第1回が中止）。広報やチラシ配布により参加者を募集した。参加人数：第2回（12/12 子ども21人、大人14人、その他1人、担当者8人）、第3回（1/13 子どもも25人、大人25人、その他2人、担当者8人）

【事業の成果】

コロナ禍で、施設が使用禁止になり、第1回は実施出来なかったのが、大変残念だった。

第2回は、ようろう保育園が場所を貸して下さり実施できた。来て下さった皆さんが楽しくのんびりと食事できた。コロナ禍の中、遊びに行けず、ストレスを抱えている方も有り、スタッフとの会話も楽しんだ。第3回はテイクアウトのみで開催した。ソーシャルディスタンスを考え（新型コロナウイルス感染症対策シートを作成）、実施場所の館内では、間隔等が十分に配慮し、配布が実施出来た。「人同士の間隔は空いているが、気持ちの上では密接です！」と言っていた。申込者が多く、キャンセル待ちも出たが、皆さんが興味を持って下さった事、新たな、つながりを得られたことは、今後の活動の大きな自信となった。



第3回はテイクアウトのみで開催した。ソーシャルディスタンスを考え（新型コロナウイルス感染症対策シートを作成）、実施場所の館内では、間隔等が十分に配慮し、配布が実施出来た。「人同士の間隔は空いているが、気持ちの上では密接です！」と言っていた。申込者が多く、キャンセル待ちも出たが、皆さんが興味を持って下さった事、新たな、つながりを得られたことは、今後の活動の大きな自信となった。

## NPO法人あゆみだした女性と子どもの会（岐阜市）

【助成事業名】面会交流支援事業

【助成額】300,000円（総事業費1,335,780円）

【事業の内容】DV、虐待等により別居、離婚に至った親子の面会交流を支える事業。安心安全な場所の確保と専門スタッフによる見守りを実施した。対象者：6か月から18歳の子とその同居親・別居親 面会交流：69回 実人数：234人（他の助成金と併用）

【事業の成果】

安定した場所で支援事業を行うことにより、いつでも相談に行けるという居場所としての安心感、相談中に誰かに合うのではないかと、見られてるのではないかとという不安が減った。それによって、自分は一人ではないという気付きをし、被害者が自分力をつけていくことができ、親が元気になることで子どもも良い方向へ変化していき、様々な問題はありながらも安定した生活を取り戻すことができた人もいた。

離婚時の親権、養育費の合意とともに、面会交流を離婚調停で定めることが多く、面会交流の第三者機関を利用するのは、DV離婚などの高葛藤ケースの利用者が9割以上占めているのが現状である。子と同居している親としては、面会時の別居親による、子供の連れさり、虐待などを恐れることから面会交流が実施されず、養育費の支払いが滞り、ひとり親世帯の家計を圧迫するなど、子どもにとって良好な育成環境を脅かす事態となっている。家庭内のDVなどの問題や離婚に至る経緯の事情で、同居親と子が、別居親と面会することに負担を感じているなか、安定した場所・相談に乗るスタッフがいることで、利用者は安心感が持てている。

## NPO法人こぎつねくんわーど（恵那市）

【助成事業名】子育て支援居場所作り「こぎつねの森」

【助成額】107,917円（総事業費107,917円）

【事業の内容】子育て中の親子の孤立化を防ぐため、毎月2回、親子の居場所を開催した。

絵本の読み聞かせ、ママの為のリラックス整体、木育広場、親子ヨガなど。

実施日（参加人数）：6/29（大人12人子ども4人）

7/27（大人13人子ども9人）7/28（大人7人子ども3人）

8/24（大人14人子ども4人）8/25（大人19人子ども8人）

9/28（大人10人子ども5人）9/29（大人11人子ども5人）

10/6（大人18人子ども7人）10/25（大人10人子ども7人）

\*4月、5月、11月～3月はコロナ禍によりお休み。

【事業の成果】

子育ての場として、「こんなのが欲しかった」と、お母さん達から声をいただいた。

コロナ禍の厳しい中でも、子どもを育てるお母さん達には、子どもを遊ばせる公園や子育てセンターや「こぎつねの森」のような「安心安全な遊び場」がいかに重要か、検証されたと感じている。母親にとっても、子育てのつらさ、苦しさを分かち合い、励ましあい、ともに成長することは子育て支援の重大な役割の一つで、安心安全な居場所作りを続けたい。



## ぎなんプレーパークの会（岐南町）

【助成事業名】大人も子どもも学びあい、まざりあう場づくり～不登校児童生徒の居場所づくり

【助成額】283,950円（総事業費 309,288円）

【事業の内容】岐南町伏屋の空き家を活用した地域の居場所「ふせやの森」に、不登校の子どもたちが通えるようにし、地域の人たちとも交流した。実施回数27回、参加のべ人数、子ども143人、大人191人。

【事業の成果】

コロナ禍ではあったが、怪獣造形師との「みんなで作る巨大恐竜づくり」を毎回実施した。近所の方が散歩の途中で様子を見にきてくださるなど、多くの方との交流の場にもなった。開催場所の空き家の敷地の整備も同時進行し、敷地内の果実の収穫体験、近隣の散歩、屋外での活動も無理なくできた。その他、七草がゆ・餅つき・味噌づくりも参加者皆で楽しむことができた。



室内では、ボードゲームやカプラ（木製ブロック）を使って、小学生から大人までが気負わず居られる居心地の良い場所になっていった。子ども同士も仲良くなり、子ども達の要望で2月以降は回数も増やし毎週水曜日に開催。お泊まり会も行うことができた。回数の多くなった時期には、地元の大学生もボランティアで来てくれるようになった。怪獣造形師の方の「俺の人生ゴジラ！」のお話会は、参加者との会話の中から発案した企画で、「好きな事を突き詰めて仕事にしてしまった人のお話」ということで、多くの方々が参加して下さり、居場所である「ふせやの森」の周知にも繋がった。



## 【A-2】 ステップアップ助成 全3件 助成総額541,315円

### alcma(あるくま) (多治見市)

【助成事業名】 「アレルギーっ子 たじみあるくまっぷ」作成・普及事業

【助成額】 200,000円 (総事業費 204,500円)

【事業の内容】

- ・多治見市内の飲食店21店舗を訪問し、食物アレルギーへの理解を求めた(うち18店が掲載店)
- ・マップ設置箇所を掲載店以外に、市内公共施設40箇所以上(市内全公民館・児童館・駅など)

【事業の成果】

- ・食物アレルギーを持つ子ども及びその家族から、「こんなマップが欲しかった」「今度子どもと出掛けてみたい」「市内にこんなに行けるお店があるのが嬉しい」「食物アレルギーを明るく受け止めていて、家族そろって食事を楽しめた」など多くの感謝の言葉をいただいた。初版分1,000部はすぐに底を尽きてしまい、印刷から2週間後に2,000部の増刷を決めた。
- ・SNSを通じて、全国の食物アレルギー児支援団体からマップへの問い合わせが多く寄せられ、「参考にしたいため送ってほしい」「自分たちの地域でもできるかもしれない」との嬉しい反響があり、民間制作のアレルギーMAPとしてのモデルとなった。
- ・協力飲食店には、食物アレルギーへの共感・理解を広めることができた。



### NPO法人仕事工房ポポロ (岐阜市)

【助成事業名】 不登校・ひきこもりの子ども、若者とのコロナ後の新たな「オンライン居場所」の可能性の探求とAKIRAオンラインライブ開催

【助成額】 200,000円 (総事業費 235,584円)

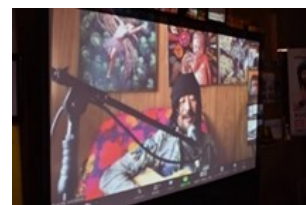
【事業の内容】 若者当事者やその家族への呼びかけ「オンライン居場所」とリアルな「居場所」を連動させ、多様なつながりを広げた。AKIRAオンラインライブを開催し、参加層の拡大をはかった。

【事業の成果】

きっかけは「会いたいけど会えない」「お話したいけれど話せない」という当事者の訴えから、2020年5月始めに無料通信アプリを使って3人での交流から始まった。その後、助成が決まって、簡易なカメラとマイクを準備し、ニュースレターやFBでの告知、慣れない機器の操作にも少しずつ習熟して、それぞれが想像以上の参加と事業の継続を実現した。

オンライン居場所は、5月22日にスタートし、毎週金曜日13時～15時に44回開催し、延べ550人が参加(平均12.5人/回)する活動として定着した(登録は25人)。オンライン居場所のキックオフにもなったAKIRAオンラインライブは、定員100名に対して118名の申し込みがあり、後日視聴も可能にして対応した。

オンラインライブでは、当事者の3人が、AKIRAさんとの交流で発言し大きな自信を得たり、オンライン居場所では、何度も試行錯誤しながら二人の「進行係」が誕生したり、この3月には、ひきこもり当事者がニュースレターのための「オンライン居場所レポーター」として参加したいとの申し出があった。



### Kinder Land (各務原市)

【助成事業名】 法人格取得の準備とリーフレット作成事業

【助成額】 141,315円 (総事業費141,315円)

【事業の内容】 NPO法人設立に向けての準備と設立総会を開催。認証までに法人案内のリーフレットを作成した。

【事業の成果】

リーフレット作成に伴い、活動範囲を広域にも広げていきたいという気持ちが全員に芽生えた。私達の想いをどのような言葉を使って伝えるのか考え、言葉の問いかけに対してどんな効果があるのか、深く考え多くの学びを得た。キンダーランドの価値とは、子育てに悩むママや元気のない子供たちに、活動を通してメンバー一人一人が持っている知恵や知識・経験を生かし、連携して自然に寄り添うことができるということ。困っていたり、頼ってきて下さる人がいる限り、いつでも変わらず温かく受け入れる場所として、存在し続けることを改めて考え、現在の事業のみにとどまらず、より社会が良くなるものを創っていこうと決意した。





## 【B】利用者負担軽減助成 全5件 助成総額373,929円

### あしたの支援室（大垣市）

【助成事業名】ひきこもり当事者の会「ラルジュ」（交通費助成）

【助成額】28,589円

【事業の内容】不登校やひきこもりの女子の居場所を6回開催。それぞれ、やりたいことをしたり生活の様子を話したり情報交換をした。利用者12人の交通費を補助した。

【事業の成果】

・安心できる場所でこれまでの辛かった思いを共感したり、悩みを相談したり、一緒に楽しんで過ごしたりすることで、より人とかかわりを持つことができるようになってきている。来ていない方を心配する声も聞かれるようになってきた。

・「ラルジュ」に参加したくても出られない方のご家族からの電話相談・当事者からの問い合わせもあり、この場の存在意義を感じている。

・交通費の負担軽減は、遠方から参加する子にとっても、送迎をする親にとっても、安心して参加できる条件の一つになっている。公共交通機関を使うことに慣れ、一人でも行動できるようになってきた。



### 岐阜キッズな（絆）支援室（岐阜市）

【助成事業名】「てらこや無償塾」へ通う生活困窮者世帯への交通費支援事業

【助成額】34,140円

【事業の内容】毎週土曜日の「てらこや無償塾」へ通うための交通費を、家庭の困窮度に合わせて補助した。実施回数は、今年度はコロナ禍で12回にとどまった。

【事業の成果】

生活困窮家庭の多くが、「てらこや無償塾に通わせたいが、交通費を出すのは負担」と考えていたが、交通費を支給することにより、子どもも保護者もお金の心配がなくなり、安心して通えるようになった。その結果、毎週きちんと通えるようになった子ども達が多くなり、精神的にも学力的にも安定して、学習意欲や学力の向上が見られた。この交通費支給を利用し、毎週無償塾に来ていた子が、無事に高校を卒業することができた。その子は就職が決まった時に「内定通知書」を持って、「頑張って高校卒業して良かった。ありがとう。」と言いに来てくれた。



### NPO法人ふる里めいほう（郡上市）

【助成事業名】明宝放課後児童クラブ運営事業（ひとり親家庭の利用料軽減）

【助成額】102,600円

【事業の内容】放課後児童クラブのひとり親家庭の利用料のうち、市の減免外の分を軽減した。対象者は4人

【事業の成果】

2家庭の母子家庭に対する放課後児童クラブの利用料を軽減した。1家庭はご両親の離婚、もう1家庭は経済的事情により、ひとり親である母親の仕事がパートタイムからフルタイムに変更と、どちらも今年度内に生活環境が大きく変わり、放課後児童クラブの利用継続や子供の成長に不安をお持ちであったが、当事業により親子共に変わりなく安心して過ごすことができた。



### NPO法人東濃子どもレスキューミッションJスペース（瑞浪市）

【助成事業名】学童保育ひまわりハウス（ひとり親家庭の登録料減免）

【助成額】95,000円

【事業の内容】放課後児童クラブを利用する方のうち、ひとり親家庭の年間登録費を免除した。

【事業の成果】

放課後児童クラブは、共働きの家庭とひとり親家庭の方を対象に、学校が終わった後の時間も安心して働くことができるように行なっている事業である。

今年度はコロナの影響もあり、学校が休校になり、不安定な状況が続きひとり親家庭の方への影響もとても大きかったようで、仕事も休みになったり、給料が減って大変だと保護者の方から聞いている。

今回、このような不安定な一年であったが、放課後児童クラブの年間登録費の軽減をすることにより、ひとり親家庭の方の負担を軽減することができた。



### NPO法人学習館みずほ（瑞穂市）

【助成事業名】放課後子ども教室（ひとり親家庭の利用料軽減）

【助成額】113,600円

【事業の内容】放課後子ども教室を、平日179日間、コロナウイルスによる学校閉鎖期間・夏休み・冬休み・春休み期間61日、合計240日開催。ひとり親家庭の子ども4人の利用料の4割を減免した。

【事業の成果】

助成事業に採択されたことにより、当事業所としては大変ありがたく、安定した事業運営の助けとなった。また、ひとり親家庭の保護者からは「利用料が減額され経済的負担が軽くなりました。安心して子どもを預け仕事に専念できました」等の声を頂いている。

来年も利用料軽減の事業を継続して行い、一人親が安心して子どもを預けることができる環境作りに寄与していきたい。



## 【C】東海ろうきん未来応援基金物品購入助成 全2件 助成総額200,000円

### 一般社団法人ぎふ学習支援ネットワーク（岐阜市）

【助成事業名】生活困窮世帯など学習に困難を伴う子どもたちへの学習支援事業

【助成額】100,000円

（購入物品：教科書10セット）

【事業の内容】現在13か所において、子ども達の貧困の連鎖を食い止めるべく、無償の学習支援を行っている。全学習支援室に小学校の全教科書を揃え、学習支援に活用した。

【事業の成果】

社会で生きてはたらく学力を保障することは、子ども達の自信にも繋がっていく。教科書の内容をきちんと教えることは大変重要であり、学習支援室で教科書を揃えることは、教材の準備としては最も重要なことである。特に、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大によって、学校の一斉休校も長く、学校が再開してからの授業のスピードは大変速くなっており、勉強について行けない子どもたちが増えている。家庭学習がきちんとできていない子どもたちにとっては、学習の理解面で打撃を受けている。この遅れを放置すると取り返しがつかなくなる。そうしたことを補うのが、私達学習支援ネットワークの役割である。

今回、5年ぶりに教科書が改訂され、全団体が教科書を全てそろえるには、多大なる金銭的負担があった。この助成金を使って、新規に教科書を揃えることができ、大変感謝している。



### CoderDojo東濃（岐阜）（多治見市）

【助成事業名】プログラミング教室事業

【助成額】100,000円

（購入物品：プログラミング用パソコン2台）

【事業の内容】パソコンのない家庭のお子さんがプログラミングの習熟ができるように、パソコンを購入、キャラバンや教室で活用した。小学3年生から中学3年生までを対象に、16回開催。貸出PC利用者は10人。

\*参加者1回あたり平均7人、のべ人数368人、実人数30人。

【事業の成果】

ボランティアでプログラミング教室を開催しているが、パソコンを持たないご家庭のお子様は参加できないでいた。当初はパソコンを持っていないご家庭のお子様を想定していたが、それだけでなく、割れた画面で苦勞しながらコードを打っているお子さんや、パソコンが古くて、皆に遅れをとってしまうお子さんにも使ってもらった。新しいパソコンを借りられて、本当に嬉しそうに取り組むお子様がたくさんいた。開催日ごとに必ず少なくとも1名はパソコンの貸出申出があり、パソコンの貸出の必要性を実感している。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、教室の開催や参加も例年より少なかったが、2021年度以降もより多くの子供たちにパソコンの貸出ができるよう、この教室をもっと広めていくとともに、悩み相談・コミュニケーションの場づくりをしたい。



\*2020年度助成事業の実施報告は、ぎふハチドリ基金のホームページでも公開しています。

\*団体の最新情報は、各団体のホームページやfacebookでご確認ください。

\*各団体の連絡先等は、ぎふハチドリ基金の事務局までお問い合わせください。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 認定特定非営利活動法人ぎふハチドリ基金

〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-12

シンクタンク庁舎 3F んぎふNPOセンター内

TEL 058-275-9739 (んぎふNPOセンター共用)

直通 090-8736-9739 FAX 058-275-9738

Mail [hachidori@gifunpo-fund.org](mailto:hachidori@gifunpo-fund.org)

HP <http://gifunpo-fund.org/>